

株式会社日本トリム
代表取締役会長兼CEO

森澤 紳勝

機能水である電解水素水をベースとした「ウォーターヘルスケア事業」および電解水透析や国内最大の民間い希血バンクを軸とする先進医療分野の「医療連事業」を展開し、グローバルなメディカルカンパニーを目指す。著書に『『水』に価値がついた日——おいしい水から機能をもつ水へ』(ダイヤモンド社刊)

湘南鎌倉総合病院院長
小林 修三

1980年浜松医科大学卒業(1期生)、同大学第1内科入局、1986年同大学院卒業、医学博士の学位修得。1987年文部省教官第1内科助手、1988年テキサス大学サンントニオ校病理学客員講師、1992年NTT伊豆通信病院内科部長、1998年防衛医科大学校第2内科講師(指定)、1999年湘南鎌倉総合病院副院長、2013年同院腎臓病総合医療センター長(兼)、2017年同院院長代行(COO)、2022年9月より現職。

日本腎臓学会評議員・指導医、専門医、日本透析医学会評議員・指導医

日本トリムの「電解水透析」が、透析にイノベーションを起こす。

—「電解水透析」について教えてください

森澤 電解水透析は、透析液の「水」そのものに世界に先んじて着目した日本発の治療法です。透析液に水素を付加することで、酸化ストレスや炎症を抑制し、それらが原因で発生する副次的な症状を軽減して患者のQOLの向上に貢献することを目指しています。1995年、台湾大学との共同研究がスタートし、国内では2007年に東北大の倫理委員会の承認のもと臨床研究を開始、安全性と非劣性の確認と共に、さまざまな症例の報告がなされています。これまでに12報の論文を国際学術誌に発表できています。電解水透析システムは、現在、聖路加国際病院、亀田総合病院をはじめとする29施設で、941床に導入されており、約2,700名の方が電解水透析を受けられていますが、本格的な普及はまだこれからです。

—透析治療で、今もっとも重要な要素は何かと思いますか?

小林 医療にとって、なによりも命を大切にすること、命が長らえることがまず一番重要であるのは言うまでもありません。医療の進歩によって、日本の平均寿命は男性81歳・女性87歳と世界でトップクラスです。ただ、これから医療では、単に延命ではなく、いかに長く幸せに暮らし、生きることができることが求められるようになってきます。透析治療においても、患者さんのQOL(クオリティ・オブ・ライフ、人生の質)の向上や就業支援が大きな課題として取り上げられています。その中で注目しているのが電解水透析です。

—「電解水透析」へのこれからの期待と展望をお聞かせください

「透析がもつとラクだつたら」と願う患者さん、「電解水透析」をぜひ知ってください。

水素を利用した「電解水透析」は、
Well-Beingにスボットを当てた
日本発の新規治療法です。

電解水透析とは?



- ◎世界にさきがけて、溶媒である「水」そのものの機能に着目した透析治療法。
- ◎酸化ストレスや炎症の抑制を目的に、透析液の希釈水に日本トリム独自の技術で水素を付加する。
- ◎患者の方々のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上への貢献が期待される。
- ※多人数透析用水作製装置

※1「Scientific Reports」は、ネイチャー・リサーチ社によって刊行されているオンラインオープンアクセスの査読付き学術雑誌。
※2「Renal Replacement Therapy(RRT)」は、オンラインジャーナル(オープンアクセス)の日本透析医学会公式欧文誌。

日本透析医学会公式欧文誌 「Renal Replacement Therapy(RRT)」に掲載された「電解水透析」に関する最新の研究論文

- 最新型の電解水透析システムにより重度疲労感低減作用を確認、且つその作用を高める要因を発見(2022年7月25日掲載)
- 電解水透析で重度の透析関連疲労感をほぼ消失(2021年10月16日掲載)

論文(和訳)の閲覧はこちらから
⇒ <https://www.nihon-trim.co.jp/research/>

